

やまのかたりべ

第71章 会津駒ヶ岳

会津駒ヶ岳は以前から友人に強く勧められてきたが、なかなか時間を作れずにいた。今年こそはと思い日帰り登山を計画する。

夜行でスケジュールを組まないと日帰りは厳しい(電車とバスの便数が少ないため)。登山口となる「駒ヶ岳登山口」バス停まで、東京から夜行で行けるバスツアーを探すが思うようなバスが見つからない。そこで週末のみ運行している「尾瀬夜行 23:55」という東武トップツアーズの夜行電車とバスがセットになっているツアーを発見。ネットで何でも検索できるこのご時世に深謝。もちろん予約もネットで簡単にできる。どうかどうか、晴れますように！！

<ポイント1>

かなりお勧めの「尾瀬夜行 23:55」。浅草駅が始発となり、その後北千住駅、新越谷駅、春日部駅に停車し会津高原尾瀬口駅まで向かう。その後バスに乗り換えて御池・沼山峠に向かう。プランケットと車内用スリッパ(持帰りOK)付き。下記ツアーホームページ参照。

http://tobutoptours.jp/dom/hok_toh/oze/

7月16日(土)

仕事を終えて20時に帰宅。夫が用意してくれた夕飯を食べ、急いでシャワーを浴びる。最終荷物のチェック。残念ながら明日の天気予報は全国的に曇りと雨。福島も雨マークである。コッヘルやバーナーは、前日までザックに入れていたが、雨ではお昼を楽しむ時間はないだろうとザックから取り出す。「雨の日には雨の中を楽しむ…」しかないと思いつつも、気持ちはどんより。

北千住駅から尾瀬夜行電車に乗る予定の私。北千住駅は利用することがないので早めに家を出発する。

23時30分 北千住駅到着

電車が来るまでベンチに座りのんびり過ごす。

23時55分ごろ、ホームのアナウンスが流れる「尾瀬夜行 23:55にご乗車のお客様は特急列車ホーム先頭にお越しく下さい」とのこと。ホームの中にさらに改札があり乗車券を見せて中に入る。とりあえず、無事夜行電車に乗って出発できそうだ。

00時10分 浅草駅を出発した夜行電車に乗り込み出発。今回は自分一人なので、女性専用車両を予約。席は結構空いている。早々に寝る準備。アイマスクと空気枕をセットし就寝。その後、二か所停車するが自分の横は空席だったので、寝やすい体勢を作る。

3時45分 ふと目が覚める。ほんの数時間であるが熟睡できたようだ。窓の外を見ると「会津高原尾瀬口」の看板が見える。ここからバスに乗り換えである。(3時18分に駅に到着し3時50分頃まで車中にて仮眠可能)。

3時50分 電車を降りバス停に向かう

当たり前だがまだ暗い。雨はまだ降っていない。バス停には電車を降りた登山者の列が既にできている。4時20分頃大型バスが到着。今回は5台のバスが迎えに来た。こんな早朝からバスを運行してくれる事に大感謝。バスに乗車すると、各自降車するバス停を運転手さんが聞いていく。雨なら尾瀬を散策しようと思っていたが会津駒ヶ岳に登ることを決める。

バスの中でおにぎり一つ、早い朝食を摂る。どうかどうか、少しでも雨が小降りでありますように。すると、しばらくすると雲間から青空が見え始める……。ひょっとしてひょっとすると、天気予報変わったか!?!?

5時30分 駒ヶ岳登山口バス停到着
5台のバスから降りた登山客、私以外に一人…
皆尾瀬に向かうようだ。

5時35分 出発
滝沢登山口まで地図上では30分。
ひたすらアスファルトと砂利道を登る。
車であれば滝沢登山口の手前まで入ることが可能。
途中、駐車整備をしている方が二人現れる。
上部の駐車場は満車ということなのだろう。



5時55分 滝沢登山口。

登り始めは肌寒かったのでジャケットを着たが、既に汗が噴き出ている。ここからはしばらく急な登りが続くため寒くなることはないと思い、ジャケットをザックにしまう。登山届を提出し出発。



(滝沢登山口 登山届ポスト設置)



(水場 こまめに道標が設置されている)

登り始めは急な階段から始まる。ブナ林の中をジグザクにひたすら登る。きれいな森であるが足元が大変滑りやすく、上ばかりも見えていられない。30分ぐらい進むと休憩されている方々数人「水場まで急登ですよね…」「きついとは聞いていたけど、きついですね～」と会話を交わしている。ご挨拶をし自分のペースを崩さず通り過ぎる。日差しがさほど強くないことがありがたい。途中水分を一度摂る。

6時55分 水場到着

ちょっとした広いスペースである。10人ぐらいの登山者が休憩していた。水場はここから少し下ったところにあるようだ。汲みに行こうとすると下から二人の男性が上がってくる。「水場は近いですか？」と尋ねると「結構下るみたいだから途中で戻ってきましたよ。沢の音が結構下の方から聞こえるから、大分下ると思うよ」とのこと。…山頂までまだ登りが続く事、帰りのバスの時刻もあるので、水は下山のとき時間に余裕があったら汲みに行くことにする。先へ急ぐ。

水場を過ぎた後もひたすら登りが続く。高度を上げていくと、次第に視界が広がり右手正面奥に会津駒ヶ岳らしい山が見える。

そこから少し進むと、木道の道が現れ景色が広がる。正面の尾根の上に駒ノ小屋、その横に会津駒ヶ岳。景色を堪能しつつ湿原の上に作られた木道を進む。左手には燧ヶ岳(ひうちがたけ)と至仏山の山容が楽しめる。



駒ノ小屋に続く最後の木道の登りは歩幅が合わず、ペースが落ちるものの、計画していたより早い到着となる。駒ノ池を右手に見ながら最後の階段を数段登ると駒ノ小屋である。

7時50分 駒ノ小屋到着

小屋前では既にビールで乾杯している登山者二人。実においしそうである。小屋もきれいに管理されている。

<ポイント2>

駒ノ小屋、宿泊は素泊まりのみ(布団あり)。

宿泊定員は28名。必ず予約必要。詳細は下記、ホームページ参照。

<http://komanokoya.com/>

駒ノ池の周辺にベンチとテーブルが設置されており、多くの登山者がそこで休憩していた。自分もベンチに腰掛けおにぎりでエネルギー補充。天気はなんと快晴。若干雲が多くなってきた様子。バーナー持ってくればよかったなあ~と思いながら目指す山頂を仰ぎ見る。雨だと寒いと思って作ってきたHOT紅茶は必要ないかもしれない。

山頂目指して出発。山頂は直登するのかと思っただが、木道は左裾を回り込んで作られている。樹林帯を少し進むと中門岳と会津駒ヶ岳山頂への分岐点がある。山頂方面から登山者が一人降りてくる。滑りやすいような木道である。ここまでくれば山頂はすぐである。

8時20分 標高2,133m 会津駒ヶ岳山頂着

立派な道標が立てられていた。山頂は思ったより展望がなく、南東面にやっと山々が見える程度。初秋頃に来たら多少は視界が開けるのであろうか？



(山頂から 後方燧ヶ岳)



(中門岳に向かう道)

雨も何とか持ちそうである。時間も余裕があるので、中門岳の途中まで目指すことにする。山頂から中門岳方面へは広い尾根、湿原の上をひたすら歩く。ゆるやかにアップダウンを繰り返す木道の道、気持ち良い風が吹いている。

途中から、ポツリポツリ雨が降り出す。
降ったりやんだり、太陽が出たり隠れたり。
いよいよ天気は崩れるのか？先を急ぐ。
会津駒ヶ岳周辺の池塘で一番大きいとされる中門池に到着。
ここからなだらかな登り道を先に進むと
中門岳山頂となるが、今回はここで引き返すことにする。



(中門池)

戻る途中、霧がでてくる。これがまた美しい。
時より日差しがもどり、幻想的な景色を作りだす。

9時20分 駒ノ小屋に戻る

午前中よりもさらに多くの登山者が駒ノ池の前で休憩していた。ほとんどが今日はお泊り組なのだろうか？実に羨ましい…。こちらはバスの時間を気にしつつ、濡れた木道で転倒しないよう気を付けかなり神経を使いながら下山。

下山しながらもまだまだ登山者が登ってくる。「登りはきついけど、下りは滑りそうで嫌だね～。気を付けてね。」と声をかけてくださる。「はい、気をつけます。そちらは楽しんできてくださいね。」

先程の水場のある広場まで戻る。よし、行ってみよう！と水場まで下降する。思っていたよりすぐに水場に到着。岩場の間からしっかり湧き出していた。冷たくて美味。持参していた自宅の水を捨て、駒ヶ岳の水を汲みなおす。もと来た道を戻り、再び登山口へ向け出発。

11時45分 滝沢登山口を経て駒ヶ岳登山口バス停へ下山

標高差 1,200m 以上、歩行距離 15 km以上、歩きごたえのある登山となった。

バスが来る時間まで一時間以上あるので、温泉施設を探す。下山してきた登山者に「駒の湯」という温泉施設を教えていただく。汗を流しすっきり。ビールで乾杯！！といきたいが帰りの道中がまだまだ長い。13時32分のバスに乗車し、電車に乗換え、北千住の駅に到着するのが18時52分。そこから自宅に到着するまで1時間ちょっと…。寝過ごしてしまったら大変である。う～む、ビールは我慢。駒ヶ岳の水でのどを潤すことにしよう。

長～い一日であったが大満足。天気感謝、温泉まで楽しめて最高である。

次回訪れるときは駒ノ小屋に泊まり、ビールを飲みながら夜空を楽しみたいものである。中門岳山頂までの木道も、のんびり歩いて堪能したい。



(駒ノ小屋前、駒ノ池と賑わう登山者)

5時35分 駒ヶ岳登山口発
5時55分 滝沢登山口着
6時55分 水場着
7時50分 駒ノ小屋着
8時20分 会津駒ヶ岳山頂着
8時45分 中門池着
9時20分 駒ノ小屋着
11時45分 駒ヶ岳登山口着

文責:松田留美